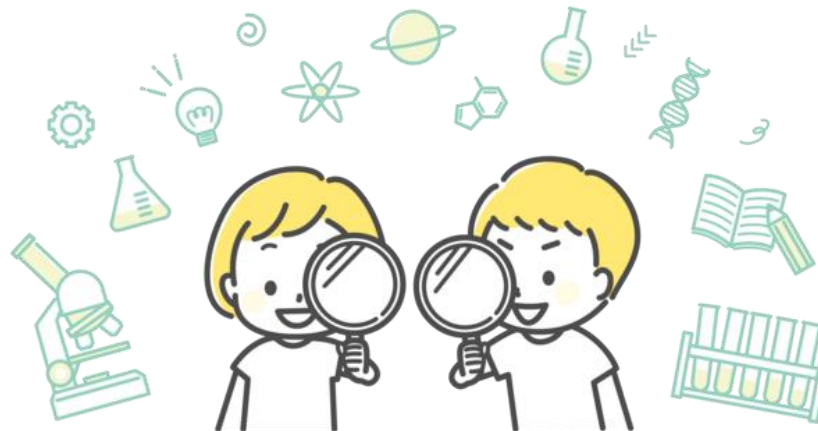




# 不登校の低年齢化に関する実態調査

## 定量調査

### 詳細版



# INDEX

0 1

**定量調査について**

0 2

**調査結果**

～類似設問への回答比較・分析～

0 3

**調査結果**

～個別の回答分析～

0 4

**参考資料**

# 定量調査について

## <調査対象>

- |         |                                 |
|---------|---------------------------------|
| ① 調査地域  | 東京都全域                           |
| ② 調査対象  | 小学校1年生、小学校3年生、小学校6年生の子供とその保護者   |
| ③ 標本サイズ | 9,000世帯                         |
| ④ 抽出方法  | 住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出法※           |
| ⑤ 調査方法  | 郵送法（郵送配布・郵送回収、WEB（インターネット）回答併用） |

※行政単位と地域によって都内をブロックに分類し（層化）、各層で抽出地点を抽出（一段目）し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して、地点ごとに一定数のサンプル抽出（二段目）を行うもの。

## <回収結果>

区分	小1		小3		小6		合 計	
	子供	保護者	子供	保護者	子供	保護者	子供	保護者
発送数	3,000		3,000		3,000		9,000	9,000
有効 回答数	1,371		1,413		1,377		4,161	
回収率 【%】	45.7		47.1		45.9		46.2	46.2

※回答数については、保護者と子供の両方から回答があったものを有効回答として集計している。

※次ページ以降の表・グラフにおいて、無回答・無効回答の場合は集計に含めていないため、設問ごとに回答数（n値）が異なる。

※また、端数処理の関係で小数点以下第2位で四捨五入し、小数第1位までで表示しているため、一部構成比と合計が一致していない。

## <不登校傾向・非不登校傾向>

- 不登校傾向 : 659人 (16.0%)
- 非不登校傾向 : 3,467人 (84.0%)

※不登校傾向 : 学校に行っていない、または登校渋りの様子が見られる子供

※非不登校傾向 : 上記以外

※分類方法の詳細は、P35～37を参照

# INDEX

0 1

定量調査について

0 2

**調査結果**

～類似設問への回答比較・分析～

0 3

調査結果

～個別の回答分析～

0 4

参考資料

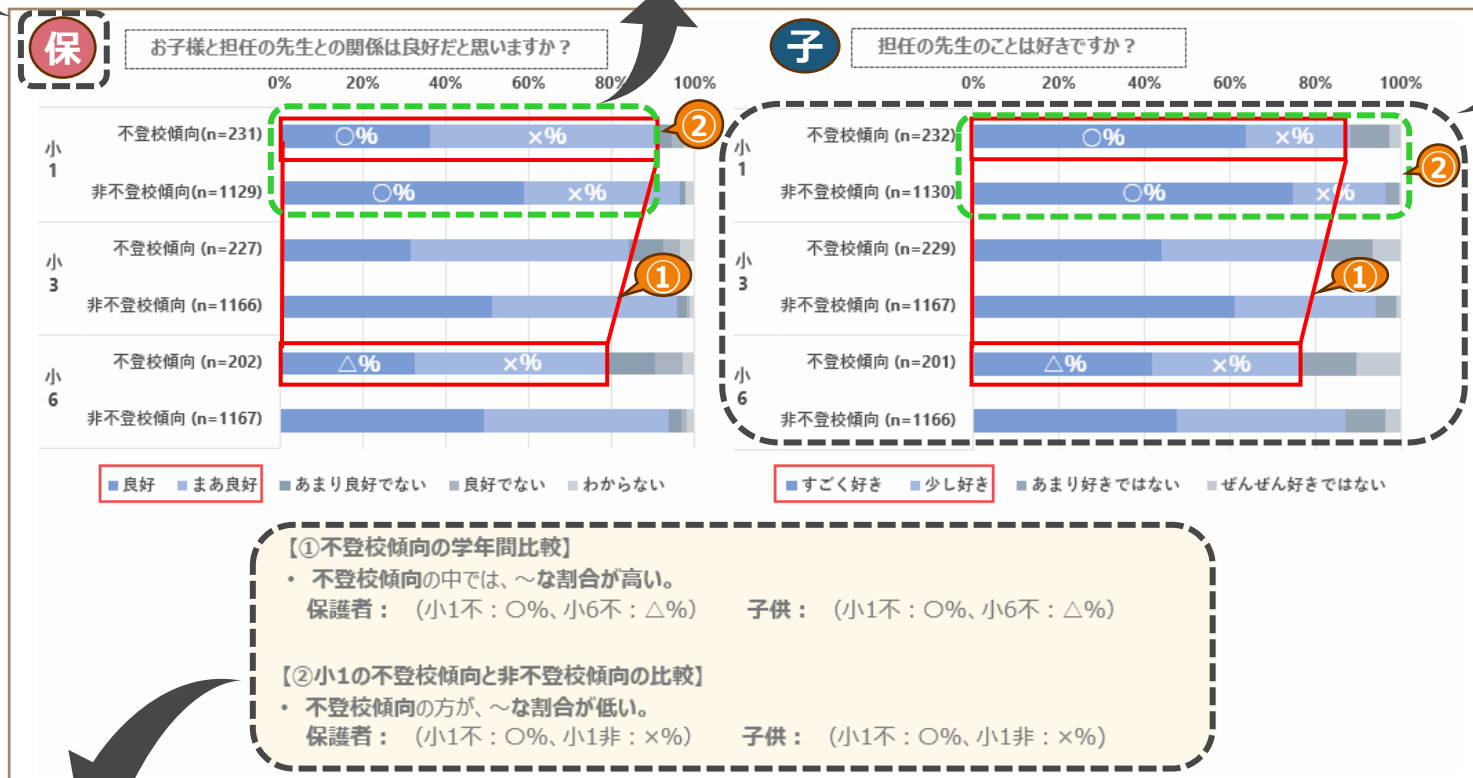
# 分析グラフの見方

・保護者の調査結果は **保** と表示、子供の調査結果は **子** と表示

・下記考察で触れている「**学年間比較**」の箇所を**赤枠**、  
「**小1の不登校/非不登校傾向間**」比較を**緑枠**で強調

・各設問の回答結果を

①小1不登校傾向 ②小1非不登校傾向 ③小3不登校傾向  
④小3非不登校傾向 ⑤小6不登校傾向 ⑥小6非不登校傾向  
の6軸でクロス集計



・上記グラフを

- ①不登校傾向の学年間（小1・小3・小6）  
（保護者と子供に同様の質問をしている場合、**赤枠**内の該当割合を併記）
  - ②小1の不登校傾向（小1不と記載）・非不登校傾向（小1非と記載）間  
（上記同様に**緑枠**内の該当割合を併記）
- で比較して分析した内容を記載

小1の～は、他学年と比較して～なことが示唆される

・学年間・不登校傾向比較の分析から推察される考察を記載

※本資料の見方が、全ての資料に適用されるものではない。

※P35の分類では無効回答となったが、個別の設問への回答状況から、  
不登校傾向として分析を行ったケースがある

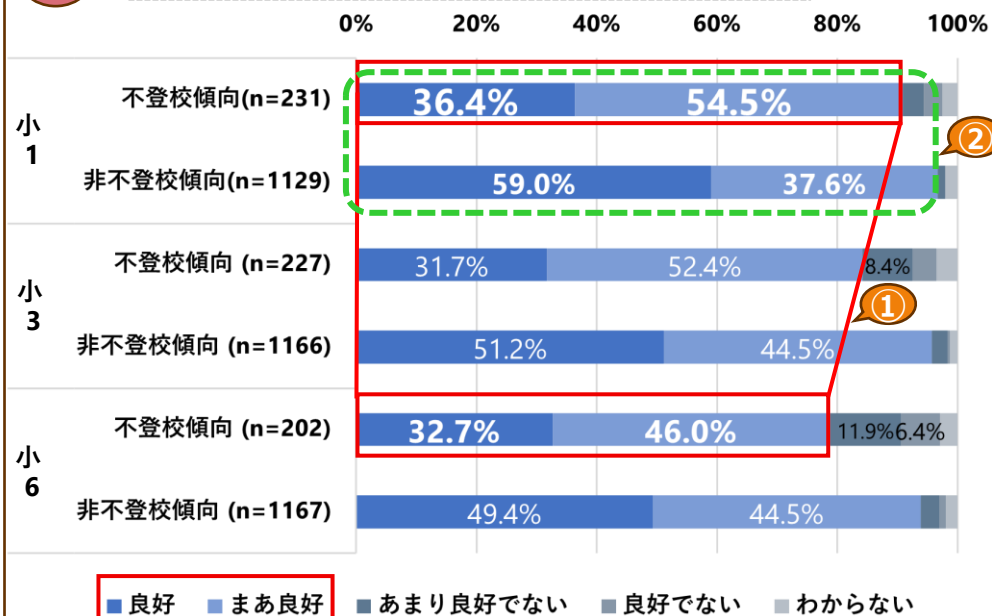
※独立性の検定（カイ二乗検定）において、5%の有意水準で差があると  
判断された場合に、「有意な差」と記載している

# 調査結果（類似設問への回答比較・分析）

## 先生との関係

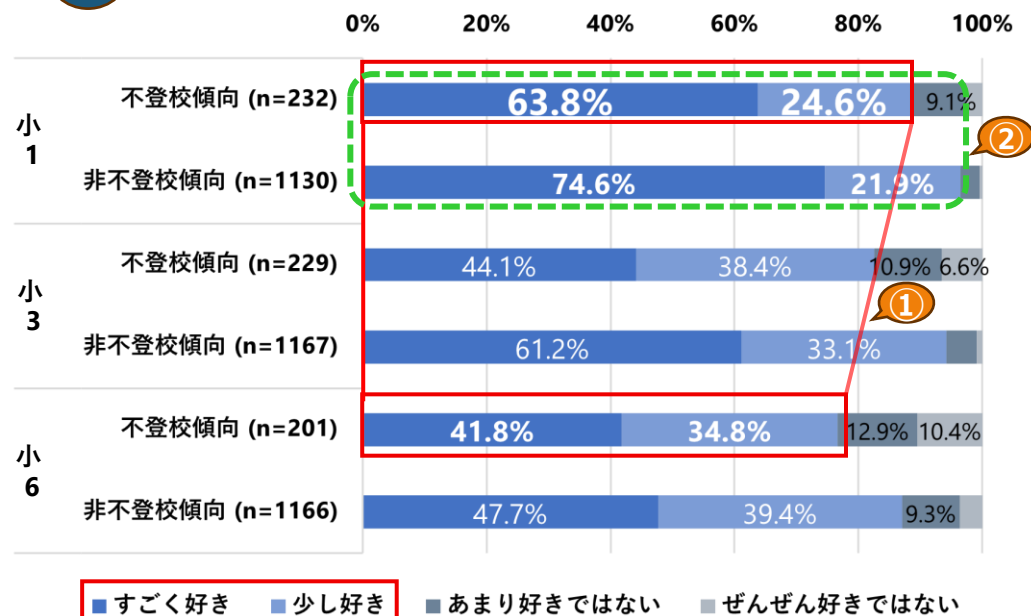
保

お子様と担任の先生との関係は良好だと思いますか？



子

担任の先生のことは好きですか？



### 【①不登校傾向の学年間比較】

- 不登校傾向の中では、保護者・子供どちらの回答でも、**小1の方が他学年よりも、先生との関係が良好な割合が高い。**（良好・まあ良好の合算）  
保護者：（小1不：90.9%、小6不：78.7%） 子供：（小1不：88.4%、小6不：76.6%）

### 【②小1の不登校傾向と非不登校傾向の比較】

- 不登校傾向の方が、保護者・子供どちらの回答でも、**先生との関係が良好な割合が低い。**（良好・まあ良好の合算）  
保護者：（小1不：90.9%、小1非：96.6%） 子供：（小1不：88.4%、小1非：96.5%）
- ただし、他学年と比較すると差は小さい。  
保護者：（小1不/非の差：5.7%、小3不/非の差：11.6%、小6不/非の差：15.2%） 子供：（小1不/非の差：8.1%、小3不/非の差：11.8%、小6不/非の差：10.5%）

小1の「先生との関係が良好であるか」については、他学年と比較して不登校要因に占める割合が低いことが示唆される

保

お子様が、スマートフォンやタブレット、ゲーム機等でゲームをしたり、YouTube等の動画を視聴する時間は、一日どのくらいですか？

0% 20% 40% 60% 80% 100%

小1

不登校傾向 (n=231) 27.7% 34.2% 25.5% 10.0%

非不登校傾向 (n=1126) 5.7% 35.9% 35.4% 14.2% 5.6%

小3

不登校傾向 (n=228) 19.7% 32.0% 25.0% 19.7%

非不登校傾向 (n=1165) 29.6% 37.8% 19.1% 8.2%

小6

不登校傾向 (n=202) 14.4% 22.3% 30.2% 31.2%

非不登校傾向 (n=1166) 24.5% 33.5% 21.3% 17.0%

■ 全くない ■ 1時間未満

■ 2時間以上～3時間未満 ■ 3時間以上

■ 1時間以上～2時間未満

■ 把握していない

子

スマートフォンやタブレット、ゲーム機などで、ゲームをしたり、YouTubeなどの動画を見る時間は1日どのくらいですか？

0% 20% 40% 60% 80% 100%

小1

不登校傾向 (n=232) 6.0% 25.9% 36.6% 20.3% 11.2%

非不登校傾向 (n=1129) 7.8% 34.4% 38.8% 12.0% 7.1%

小3

不登校傾向 (n=227) 19.4% 37.4% 19.8% 18.9%

非不登校傾向 (n=1165) 6.2% 25.8% 40.9% 17.9% 9.4%

小6

不登校傾向 (n=201) 15.9% 22.4% 29.4% 29.9%

非不登校群 (n=1165) 22.2% 31.2% 21.1% 20.7%

■ しない ■ 1時間未満

■ 2時間以上～3時間未満 ■ 3時間以上

■ 1時間以上～2時間未満

## 【①不登校傾向の学年間比較】

- 保護者・子供どちらの回答でも、**学年が上がるほど、デジタルデバイスに触れている時間が長い。**（1日2時間以上使用する割合を合算）

保護者：（小1不：35.5%、小6不：61.4%） 子供：（小1不：31.5%、小6不：59.3%）

## 【②小1の不登校傾向と非不登校傾向の比較】

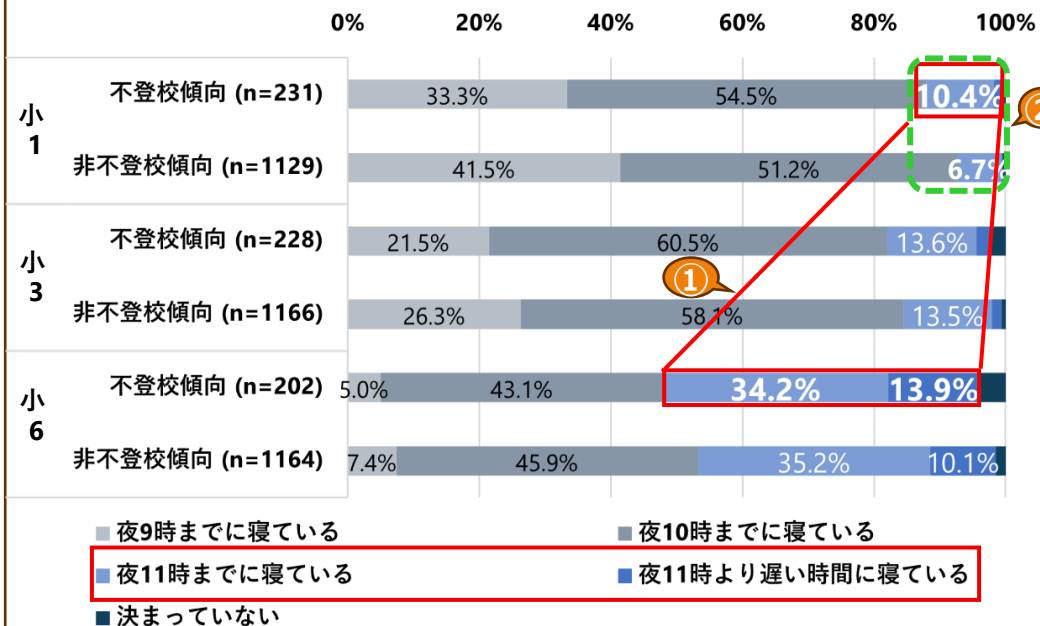
- 保護者・子供どちらの回答でも、**不登校傾向の方が、デジタルデバイスに触れている時間が長い。**（1日2時間以上使用する割合を合算）

保護者：（小1不：35.5%、小1非：19.8%） 子供：（小1不：31.5%、小1非：19.1%）

低学年特有の要因ではないが、不登校児童ほど「**デジタルデバイスの使用時間**」が**長い**傾向が見られた

保

お子様は夜何時頃寝ていますか？



## 【①不登校傾向の学年間比較】

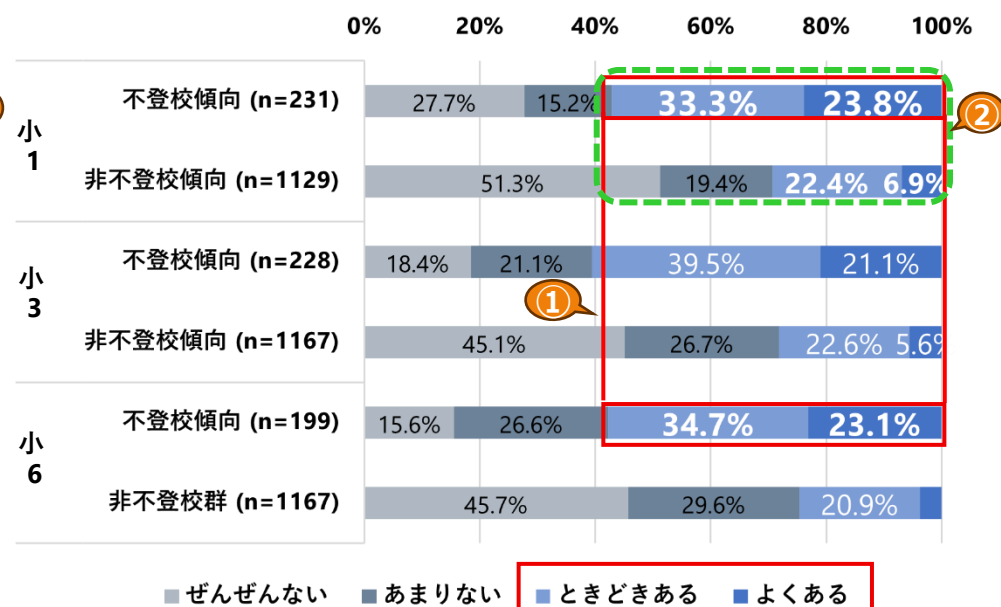
- ・ 小1は、他学年と比較して夜寝る時間が遅い割合が低い。  
(夜10時以降に寝る割合を合算 小1不：11.7%、小6不：48.1%)

## 【②小1の不登校傾向と非不登校傾向間の比較】

- ・ 不登校傾向の方が、寝る時間が遅い割合が高い。  
(夜10時以降に寝る割合を合算 小1不：11.7%、小1非：6.9%)

子

朝、起きたとき、つらいと思うときはありますか？



## 【①不登校傾向の学年間比較】

- ・ 学年の違いによる有意差なし。(ときどきある、よくあるの合算)  
(小1不：57.1%、小6不：57.8%)

## 【②小1の不登校傾向と非不登校傾向間の比較】

- ・ 不登校傾向の方が、朝がつらいと回答した割合が大幅に高い。  
(ときどきある、よくあるの合算 小1不：57.1%、小1非：29.3%)

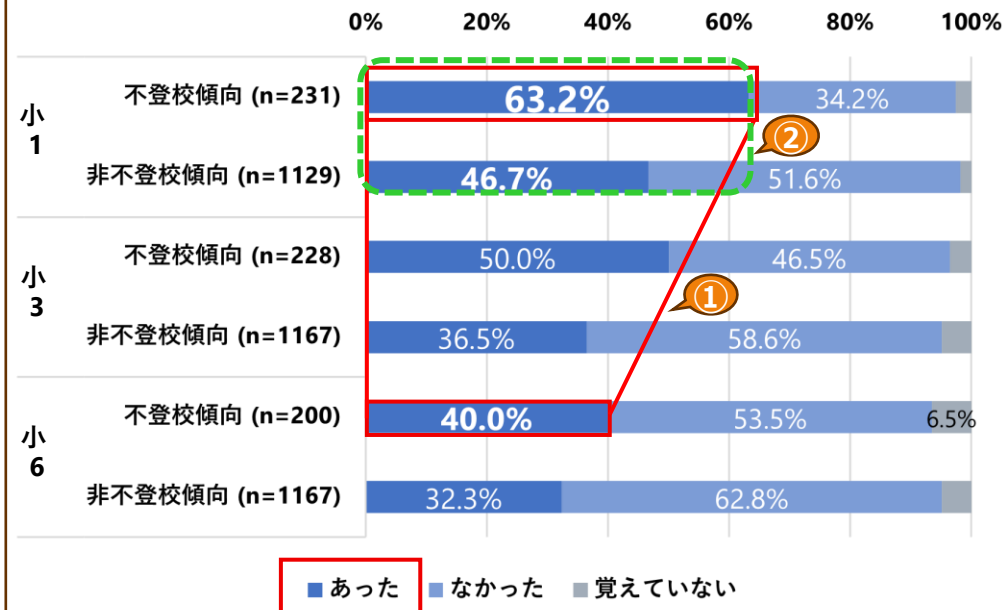
- ・ 小1は、「夜寝る時間」が他学年と比較して早い、「朝起きたときにつらい」と感じる割合は、他学年と同様に6割程度となっている
- ・ 「朝起きたときにつらいと感じるか」については、不登校との相関が見られた



## 入学前の不安

保

小学校入学前に「学校生活になじめないのではないか」と心配や不安に思っていたことはありましたか。



### 【①不登校傾向の学年間比較】

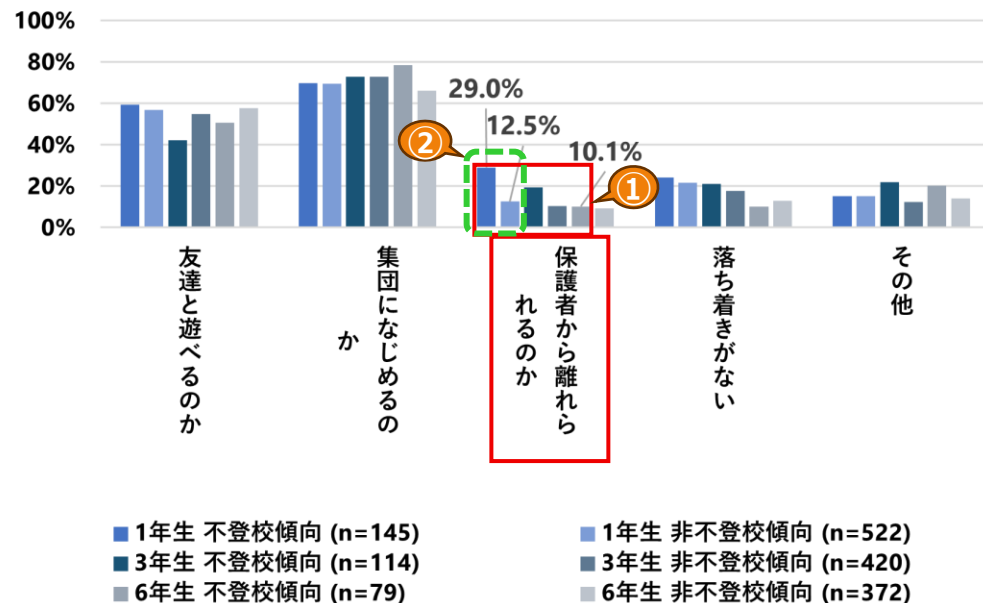
- 小1は、他学年と比較して小学校入学前に心配事があった割合が高い。(小1不：63.2%、小6不：40.0%)

### 【②小1の不登校傾向と非不登校傾向間の比較】

- 不登校傾向の方が、心配事があった割合が高い。小1はその傾向が顕著にみられる。(小1不：63.2%、小1非：46.7%)

保

小学校入学前に心配や不安に思っていたのはどのようなことでしたか。すべて選択してください



### 【①不登校傾向の学年間比較】

- 小1は、他学年と比較して「保護者から離れられるのか」に心配事があった割合が高い。(小1不：29.0%、小6不：10.1%)

### 【②小1の不登校傾向と非不登校傾向間の比較】

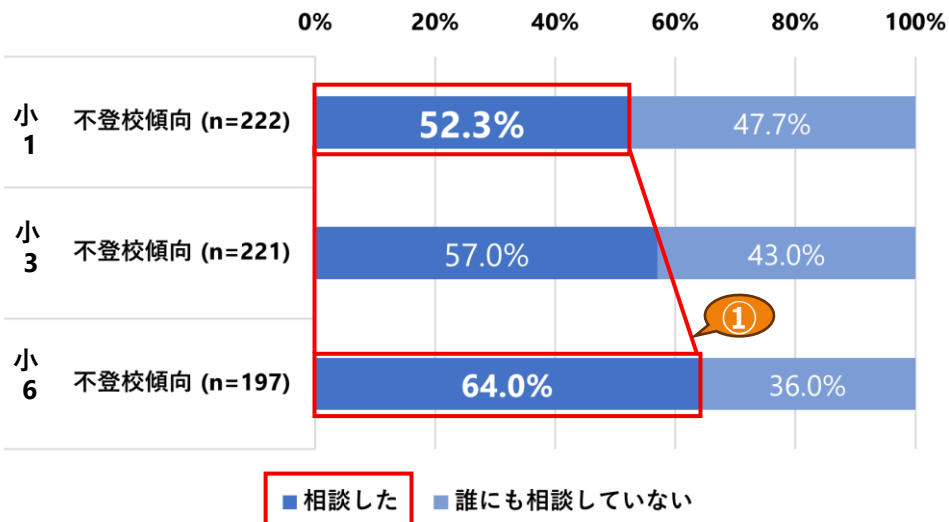
- 小1は不登校傾向の方が、非不登校傾向より「保護者から離れられるのか」という心配事があった割合が高い。(小1不：29.0%、小1非：12.5%)

- 不登校傾向の小1児童を持つ保護者の6割以上が入学前から学校になじめるか不安を抱えており、他学年と比較して最も割合が高い
- 小1の特徴として「保護者との分離不安」について、不登校との関連性が高いことが示唆される

## 不登校に関する相談先

保

学校への欠席や登校渋りが多いことについて、誰かに相談しましたか。



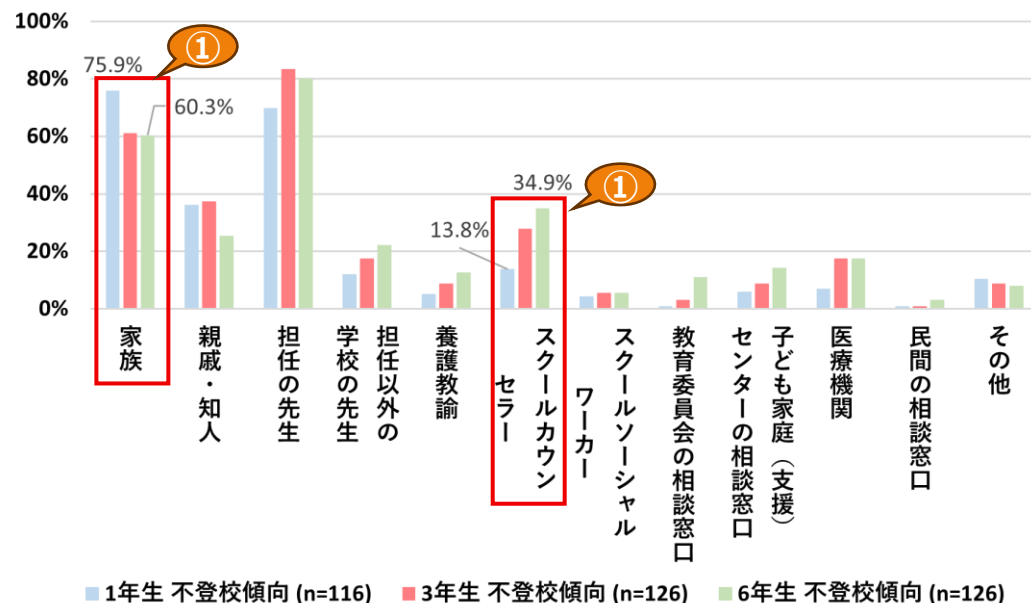
### 【①不登校傾向の学年間比較】

- 小1は他学年と比較して、欠席や登校渋りについて相談した割合が低い。  
(小1不：52.3%、小6不：64.0%)

※不登校傾向への設問のため、非不登校傾向との比較なし。

保

相談した先を全て教えてください。(複数選択)



### 【①不登校傾向の学年間比較】

- 小1は「家族」に相談した割合が高く、(小1不：75.9%、小6不：60.3%)「スクールカウンセラー」に相談した割合が低い。  
(小1不：13.8%、小6不：34.9%)

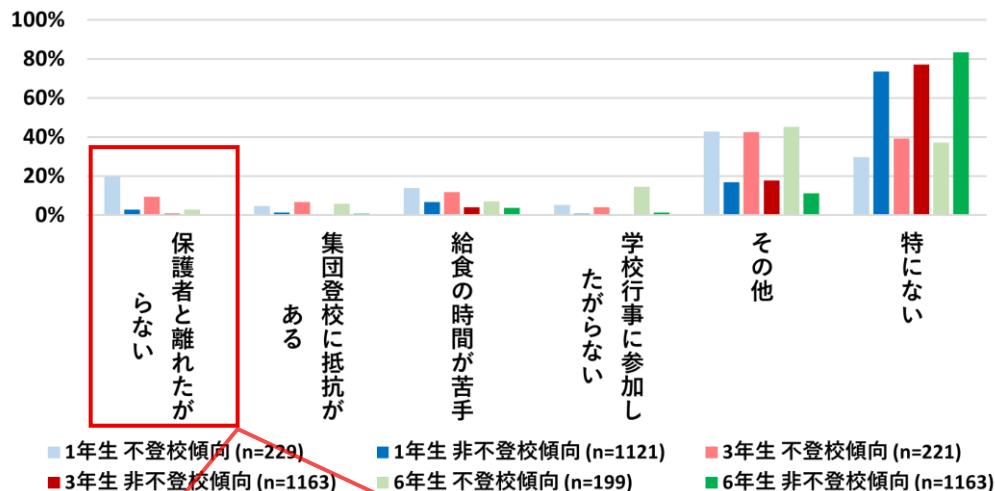
※不登校傾向への設問のため、非不登校傾向との比較なし。

小1の保護者は、子供が登校渋りになっても、身近な家族への相談に留まり、相談窓口や機関に繋がっていない可能性が高いことが示唆される

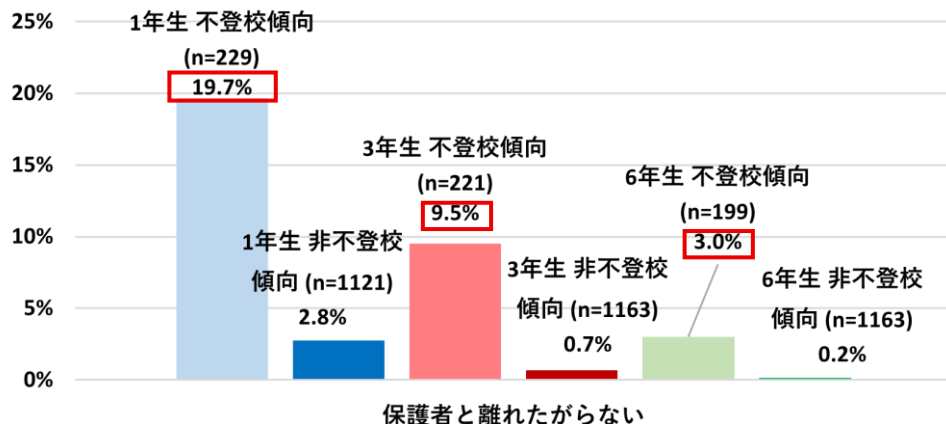
## 保護者との分離不安

保

お子様の学校生活での様子について、心配や不安なことはありますか。  
(複数回答)



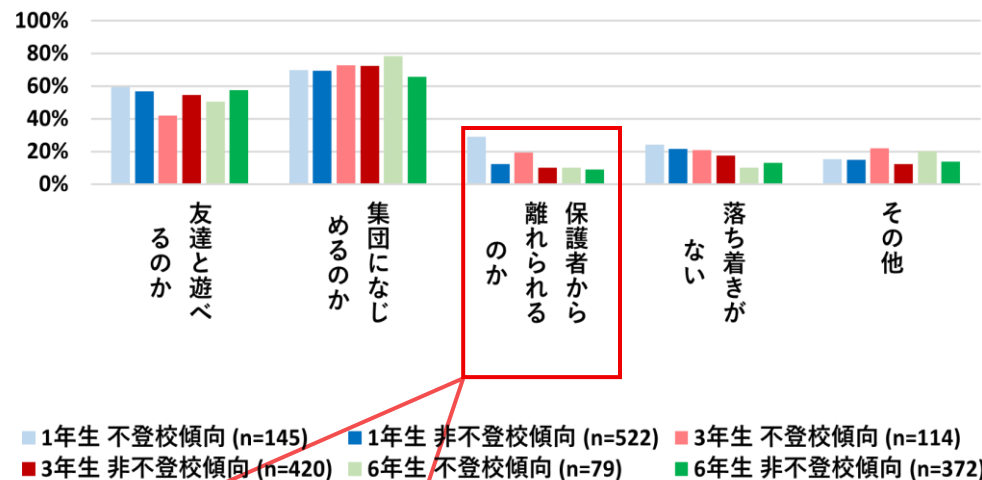
(選択肢「保護者と離れたがらない」の回答比率のみ抜粋)



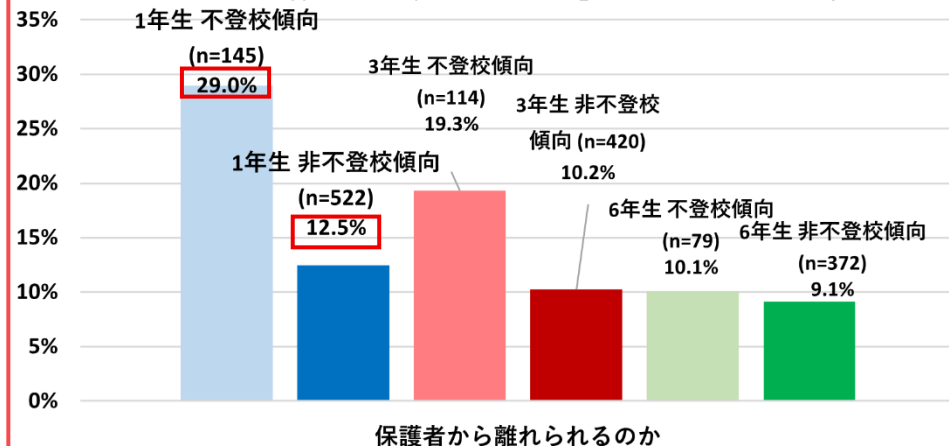
- 不登校傾向において、小1の保護者は「保護者と離れたがらない」の選択肢を選んだ割合（19.7%）が、他学年（小3：9.5%、小6：3.0%）と比較して高い。

保

小学校入学前に、心配や不安に思っていたのはどのようなことでしたか。  
(複数回答) ※再掲



(選択肢「保護者から離れられるのか」の回答比率のみ抜粋)



- 小1不登校傾向の保護者は、「保護者から離れられるのか」の選択肢を選んだ割合（29.0%）が、小1非不登校傾向（12.5%）と比較して高い。

# INDEX

0 1

定量調査について

0 2

調査結果

～類似設問への回答比較・分析～

0 3

調査結果

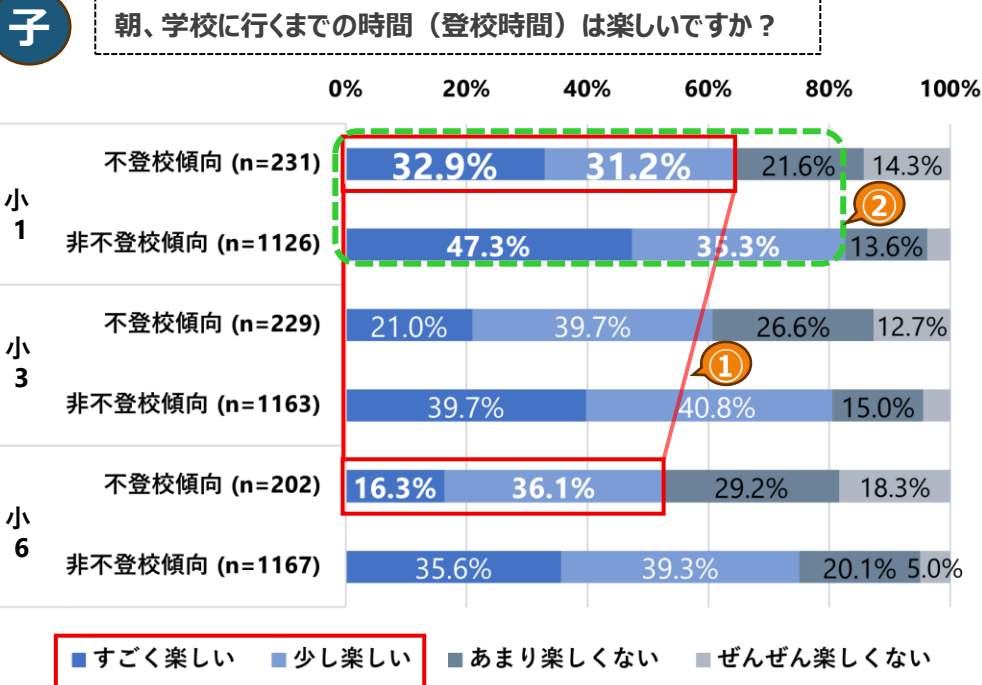
～個別の回答分析～

0 4

参考資料

# 調査結果（個別の回答分析：子供）

## 登校時間



### 【①不登校傾向の学年間比較】

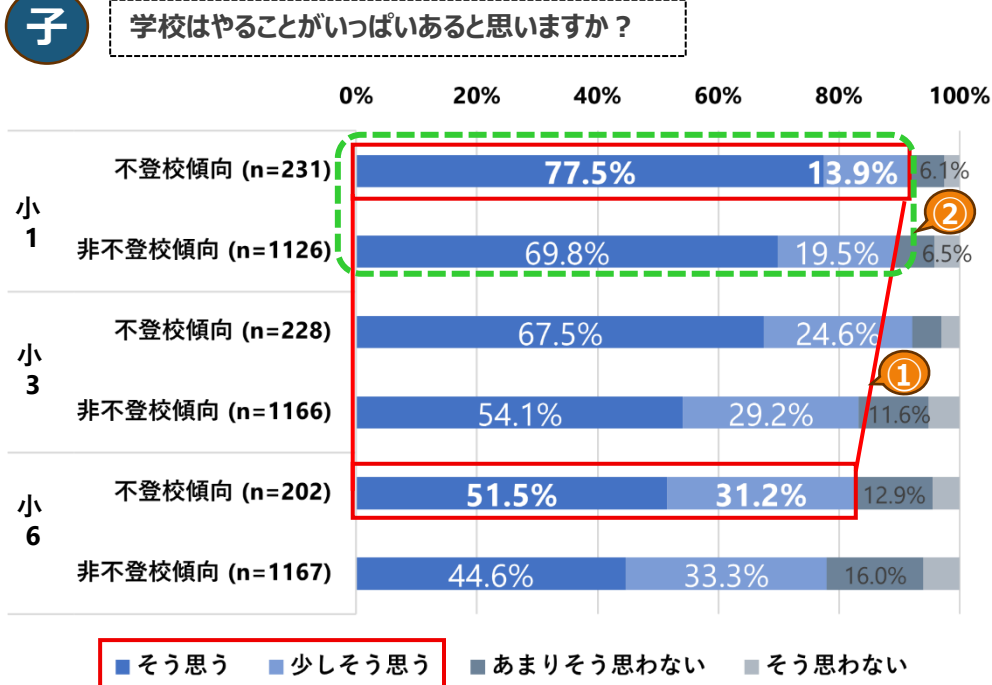
- ・ 学年が上がるほど、楽しいと回答した割合は低くなる。  
(とても楽しい、少し楽しいの合算 小1不：64.1%、小6不：52.4%)

### 【②小1の不登校傾向と非不登校傾向間の比較】

- ・ 不登校傾向の方が、楽しいと回答した割合が低い。  
(とても楽しい、少し楽しいの合算 小1不：64.1%、小1非：82.6%)

小1は、他学年と比較して、朝の登校時間が楽しいと感じている割合が高い

## 学校生活



### 【①不登校傾向の学年間比較】

- ・ 学年が上がるほど、やることがいっぱいあると感じている割合は低くなる。  
(そう思う、少しそう思うの合算 小1：91.4%、小6：82.7%)

### 【②小1の不登校傾向と非不登校傾向間の比較】

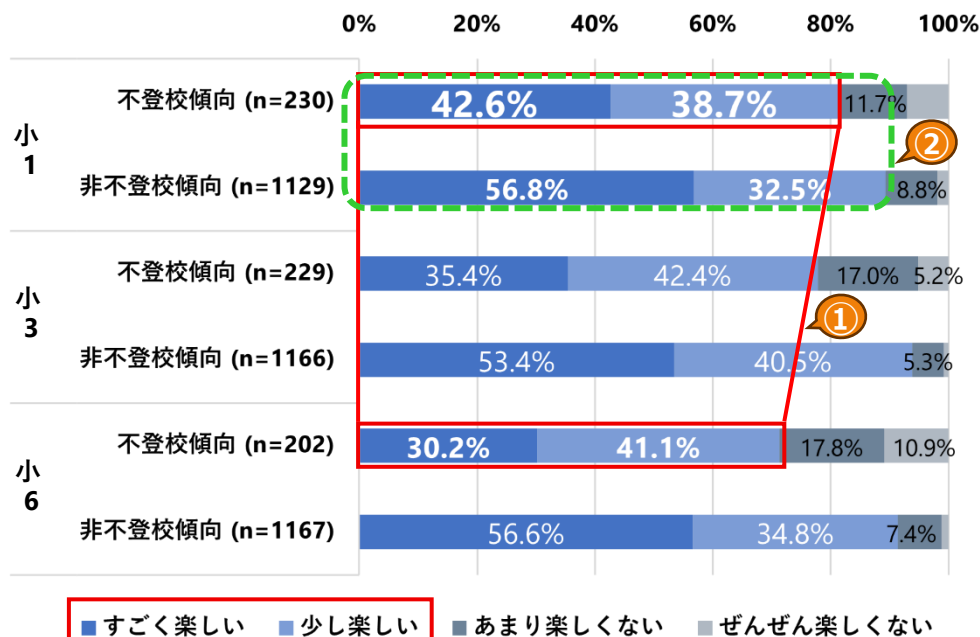
- ・ 不登校傾向の方が、やることがいっぱいあると回答した割合が高いが、大きな差はみられない。  
(そう思う、少しそう思うの合算 小1不：91.4%、小1非：89.3%)

小1は、不登校傾向の有無に関わらず、学校でやることがいっぱいあると思う割合が高い

## 学校での勉強

子

学校でクラスの人たちと勉強するのは楽しいですか？



### 【①不登校傾向の学年間比較】

- 小1は、他学年と比較してクラスの人と勉強するのは楽しいと回答した割合が高い。（すごく楽しい、少し楽しいの合算 小1：81.3%、小6：71.3%）

### 【②小1の不登校傾向と非不登校傾向間の比較】

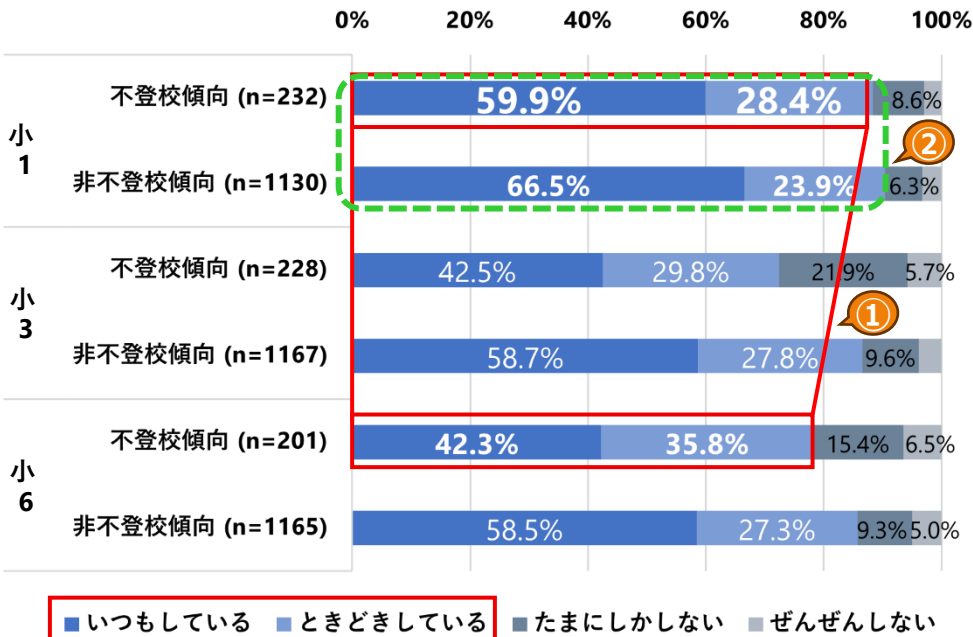
- 不登校傾向の方が、クラスの人と勉強するのは楽しいと回答した割合が低い。（すごく楽しい、少し楽しいの合算 小1不：81.3%、小1非：89.3%）
- ただし、他学年と比較すると差は小さい。（小1不/非の差：8.0%、小3不/非の差：16.1%、小6不/非の差：20.1%）

小1は、不登校傾向の有無に関わらず、勉強を楽しんでいる割合が高い

## 家での勉強

子

家で勉強はしていますか？



### 【①不登校傾向の学年間比較】

- 小1は、他学年と比較して家で勉強していると回答した割合が高い。（いつもしている、ときどきしているの合算 小1：88.3%、小6：78.1%）

### 【②小1の不登校傾向と非不登校傾向間の比較】

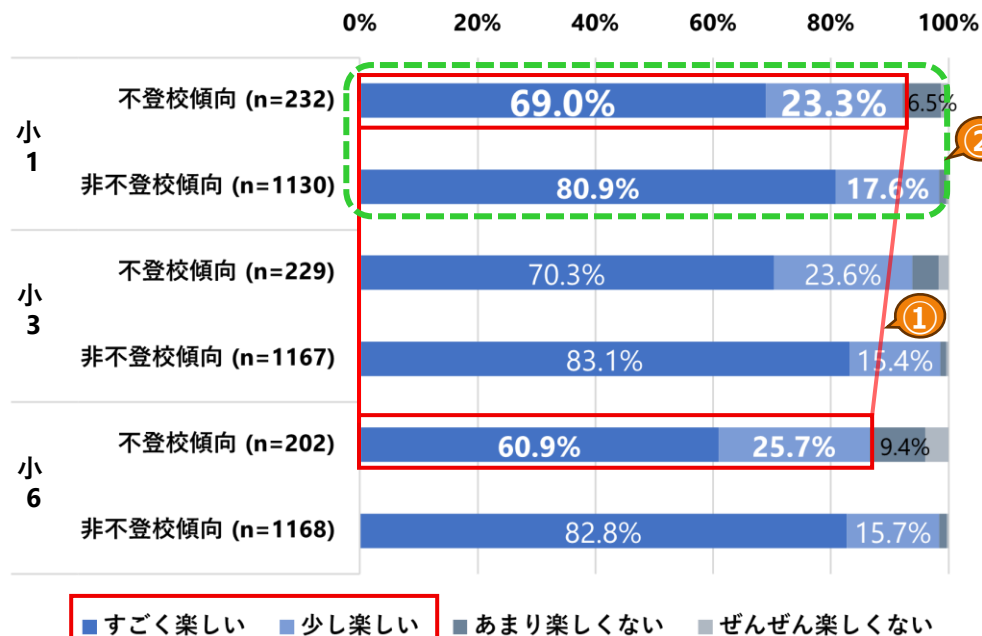
- 不登校傾向の方が、勉強していると回答した割合が低い。（いつもしている、ときどきしているの合算 小1不：88.3%、小1非：90.4%）
- ただし、他学年と比較すると差は小さい。（小1不/非の差：2.1%、小3不/非の差：14.2%、小6不/非の差：7.7%）

小1は、不登校傾向の有無に関わらず、家で勉強している割合が高い

## 友人関係

子

学校で他の子と遊ぶのは楽しいですか？



### 【①不登校傾向の学年間比較】

- 小1は、他学年と比較して学校で他の子と遊ぶのは楽しいと回答した割合が高い。  
(とても楽しい、少し楽しいの合算 小1不：92.3%、小6不：86.6%)

### 【②小1の不登校傾向と非不登校傾向間の比較】

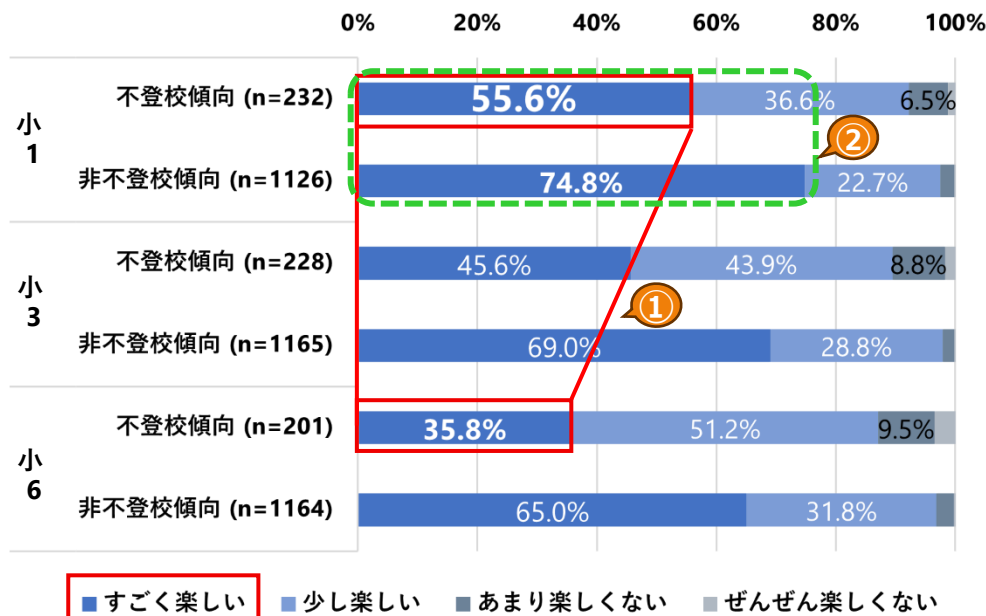
- 不登校傾向の方が、学校で他の子と遊ぶのは楽しいと回答した割合が低い。  
(とても楽しい、少し楽しいの合算 小1不：92.3%、小1非：98.5%)

小1は、不登校傾向の有無に関わらず、他の子と遊ぶのが楽しいと感じている割合が高い

## 幸福度

子

毎日楽しいですか？



### 【①不登校傾向の学年間比較】

- 学年が上がるほど、「とても楽しい」と回答した割合は低くなる。  
(小1不：55.6%、小6不：35.8%)

### 【②小1の不登校傾向と非不登校傾向間の比較】

- 不登校傾向の方が、「とても楽しい」と回答した割合が低い。
- ただし、他学年と比較すると差は小さい。  
(小1不/非の差：19.2%、小3不/非の差：23.4%、小6不/非の差：29.2%)

小1は、不登校傾向の有無に関わらず、毎日楽しいと思う割合が高い

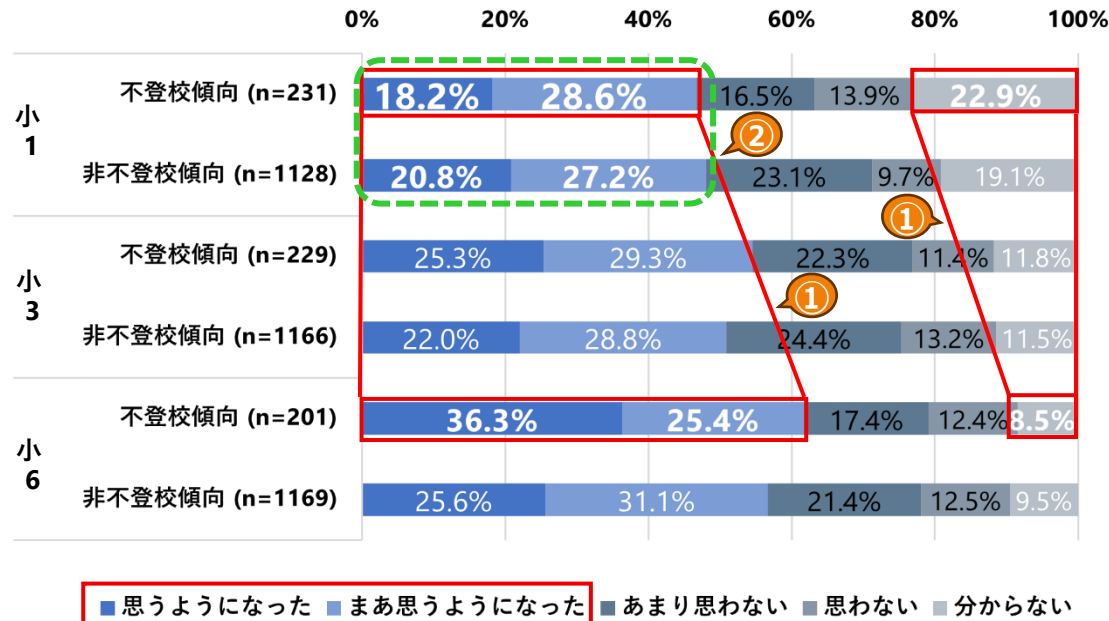


# 調査結果（個別の回答分析：保護者）

## コロナの影響による保護者の意識の変化

保

新型コロナウイルスの流行前と比べて、お子様が学校を休みたいと言ったときに、無理をさせてまで行かせなくてもよいと思うようになりましたか。



### 【①不登校傾向の学年間比較】

- ・ 学年が上がるほど、行かせなくてよいと思うようになった割合が高くなる。  
(思うようになった、まあ思うようになったの合算 小1不：46.8%、小6不：61.7%)
- ・ 小1は「わからない」の割合が他の学年に比べて高い。(小1不：22.9%、小6不：8.5%)

### 【②小1の不登校傾向と非不登校傾向間の比較】

- ・ 不登校傾向の有無による有意差なし。  
(思うようになった、まあ思うようになったの合算 小1不：46.8%、小1非：48.0%)

学年により差はあるが、「コロナの影響による意識変化」により、約半数の保護者が、子供を無理やり学校に行かせなくてもよいと考えるようになったことが示唆される

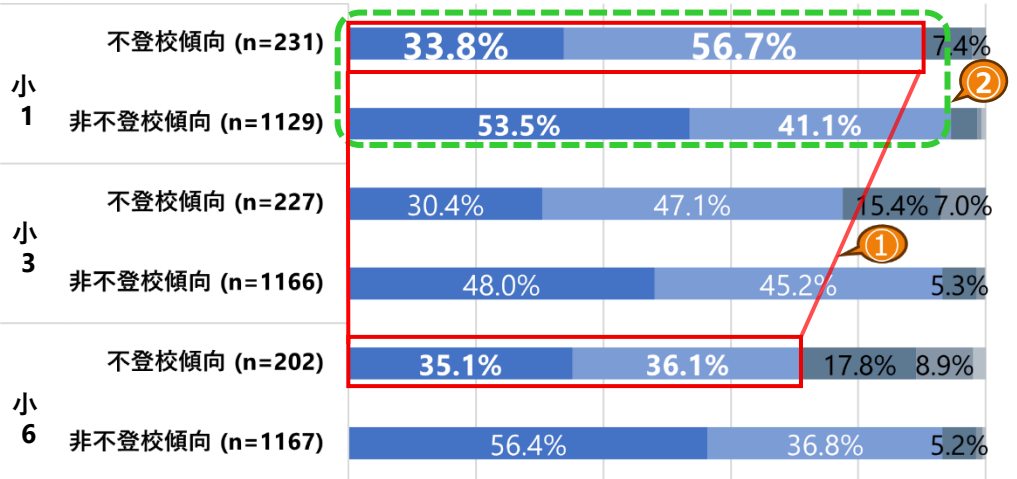


## 学校の勉強

保

お子様は学校の勉強についていけていると思いますか？

0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ ついていけている ■ まあついていけている ■ あまりついていけていない  
■ ついていけていない ■ わからない

### 【①不登校傾向の学年間比較】

- 不登校傾向の中では、小1は勉強についていけている割合が高い。  
(ついていけている、まあついていけているの合算 小1不：90.5%、小6不：71.2%)

### 【②小1の不登校傾向と非不登校傾向間の比較】

- 不登校傾向の方が、勉強についていけている割合が低い。  
(ついていけている、まあついていけているの合算 小1不：90.5%、小1非：94.6%)
- ただし、他学年と比較すると差は小さい。(小1不/非の差：4.1%、小3不/非の差：15.7%、小6不/非の差：22.0%)

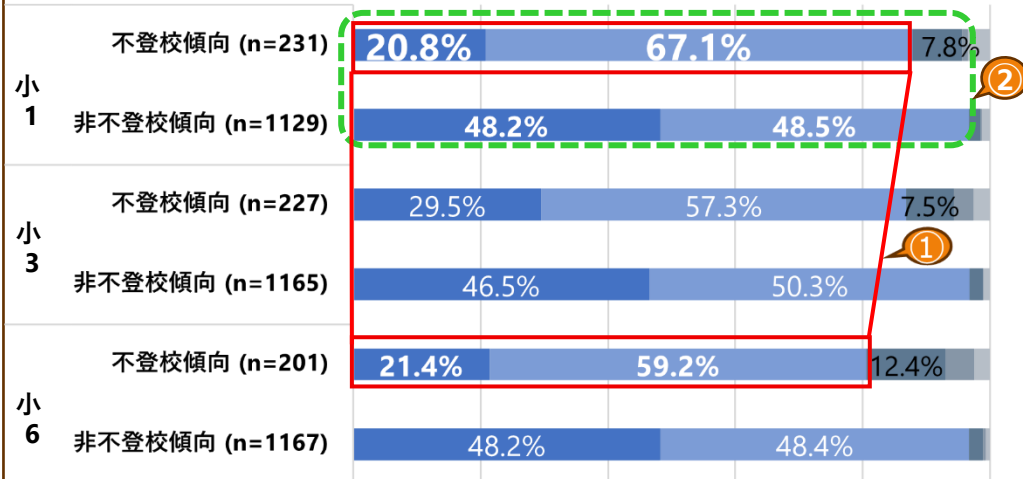
小1は、「学校の勉強についていけているかどうか」が、不登校に影響する可能性が低いことが示唆される

## 友人関係

保

お子様の友人関係は良好だと思いますか？

0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ 良好 ■ まあ良好 ■ あまり良好でない ■ 良好でない ■ わからない

### 【①不登校傾向の学年間比較】

- 小1は、他学年と比較して友人関係が良好な割合が高い。  
(良好、まあ良好の合算 小1不：87.9%、小6不：80.6%)

### 【②小1の不登校傾向と非不登校傾向間の比較】

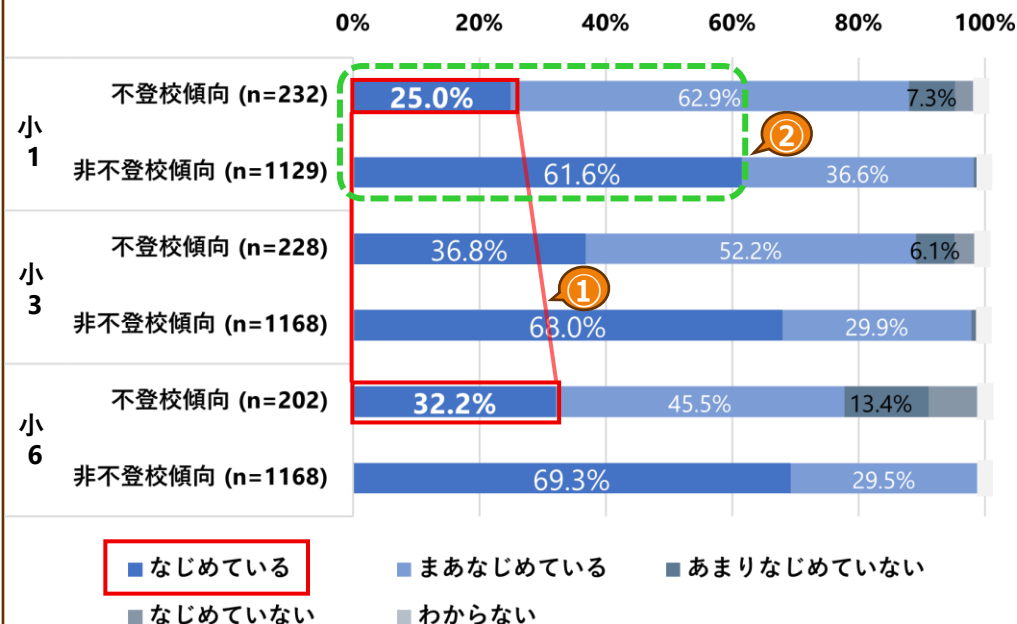
- 不登校傾向の方が、友人関係が良好な割合が低い。  
(良好、まあ良好の合算 小1不：87.9%、小1非：96.7%)
- ただし、他学年と比較すると差は小さい。(小1不/非の差：8.8%、小3不/非の差：10.0%、小6不/非の差：16.0%)

小1は、「友人関係が良好か」が、不登校に影響する可能性が低いことが示唆される

## 集団生活への適応

保

お子様は学校での集団生活になじめていると思いますか？



### 【①不登校傾向の学年間比較】

- 小1は他学年と比較して、「なじめている」の割合が低い。（小1不：25.0%、小6不：32.2%）不登校傾向の中では、小6のなじめていない割合（32.2%）が高い。

### 【②小1の不登校傾向と非不登校傾向間の比較】

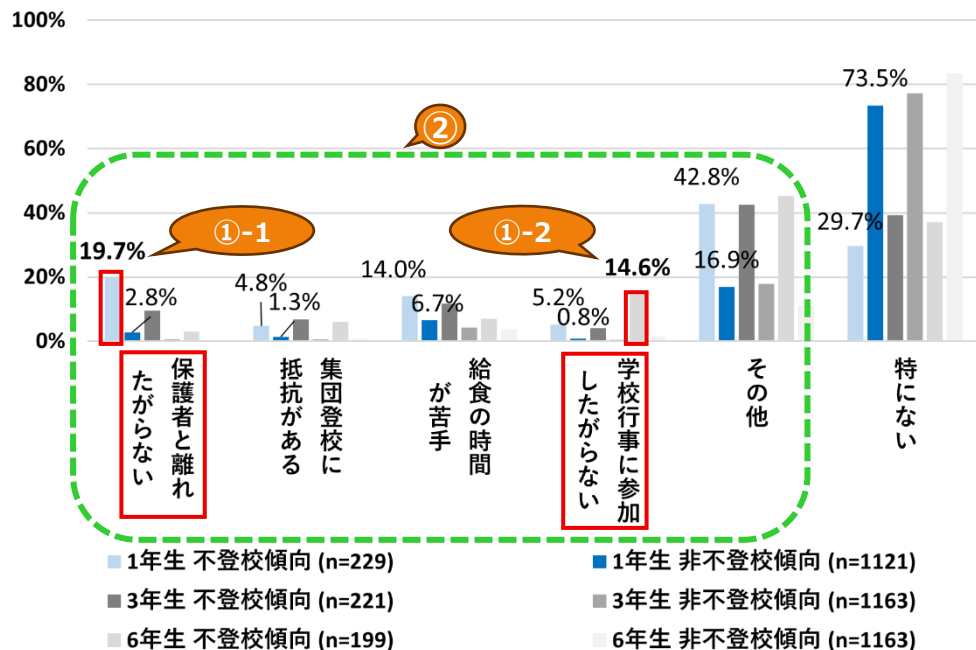
- 不登校傾向の方が、なじめている割合が大幅に低い。（小1不：25.0%、小1非：61.6%）

小1は、「集団生活になじめているか」が、不登校に影響する可能性が高いことが示唆される

## 学校生活における心配や不安

保

お子様の学校生活での様子について、心配や不安なことはありますか。当てはまるものをすべて選択してください。



### 【①不登校傾向の学年間比較】

- 不登校傾向の中では、小1は「保護者と離れたがらない」の割合が高く（①-1：19.7%）、小6は「学校行事に参加したたがらない」の割合（①-2：14.6%）が高い。

### 【②小1の不登校傾向と非不登校傾向間の比較】

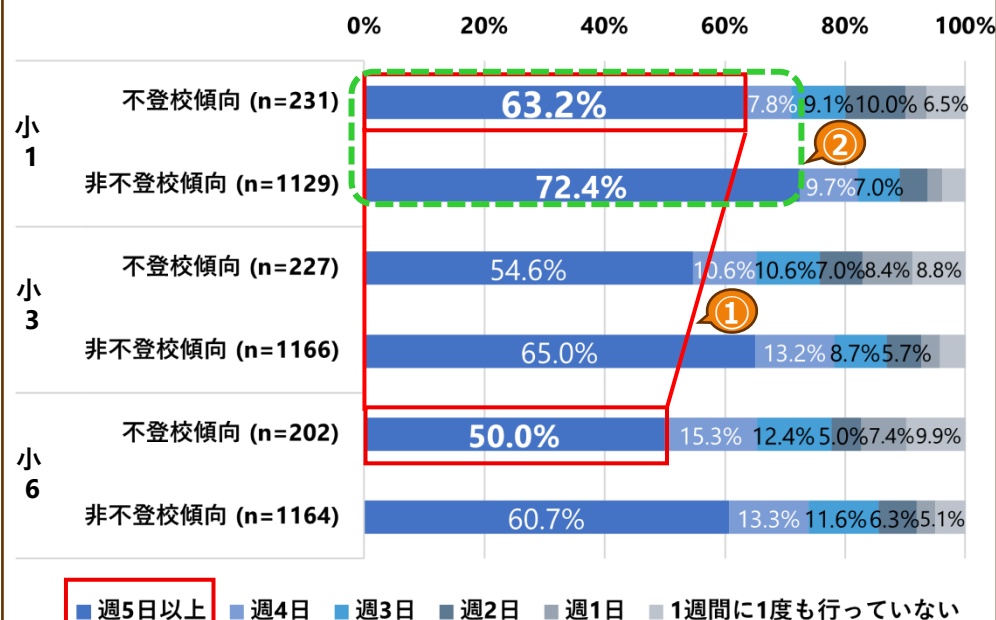
- 不登校傾向の方が何らかの心配がある割合（「特にない」以外を選択した割合）が大幅に高い。（小1不：70.3%、小1非：26.5%）

小1は、「保護者と離れたがらないか」が、不登校に影響する可能性が高いことが示唆される

## 自宅での学習頻度

保

自宅での学習は1週間のうち何日行っていますか。



### 【①不登校傾向の学年間比較】

- ・ 学年が上がるほど、週5日以上学習を行っている割合が低くなる。  
(小1不：63.2%、小6不：50.0%)

### 【②小1の不登校傾向と非不登校傾向間の比較】

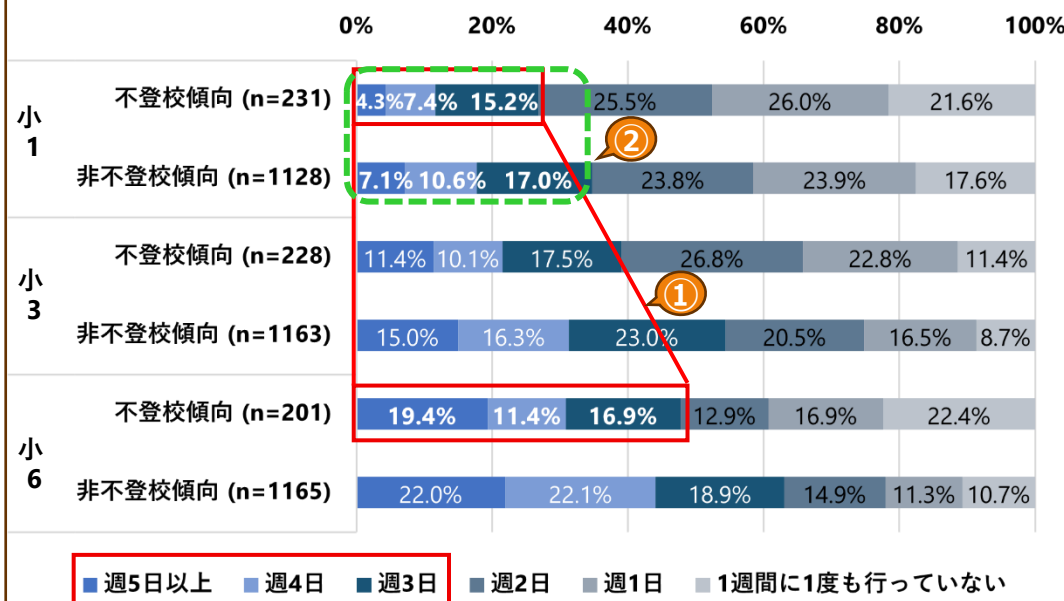
- ・ 不登校傾向の方が、学習頻度が低い。  
(週5日以上学習する割合 小1不：63.2%、小1非：72.4%)
- ・ ただし、他学年と比較すると差は小さい。(小1不/非の差：9.2%、小3不/非の差：10.4%、小6不/非の差：10.7%)

小1は、不登校傾向の有無に関わらず、「学習頻度」が高い傾向にある

## 習い事等の頻度

保

塾やお稽古、スポーツクラブ等へは1週間のうち何日行っていますか？



### 【①不登校傾向の学年間比較】

- ・ 小1は他学年と比較して、習い事の頻度が少ない。  
(習い事の頻度が週3日以上 小1：26.9%、小6：47.7%)

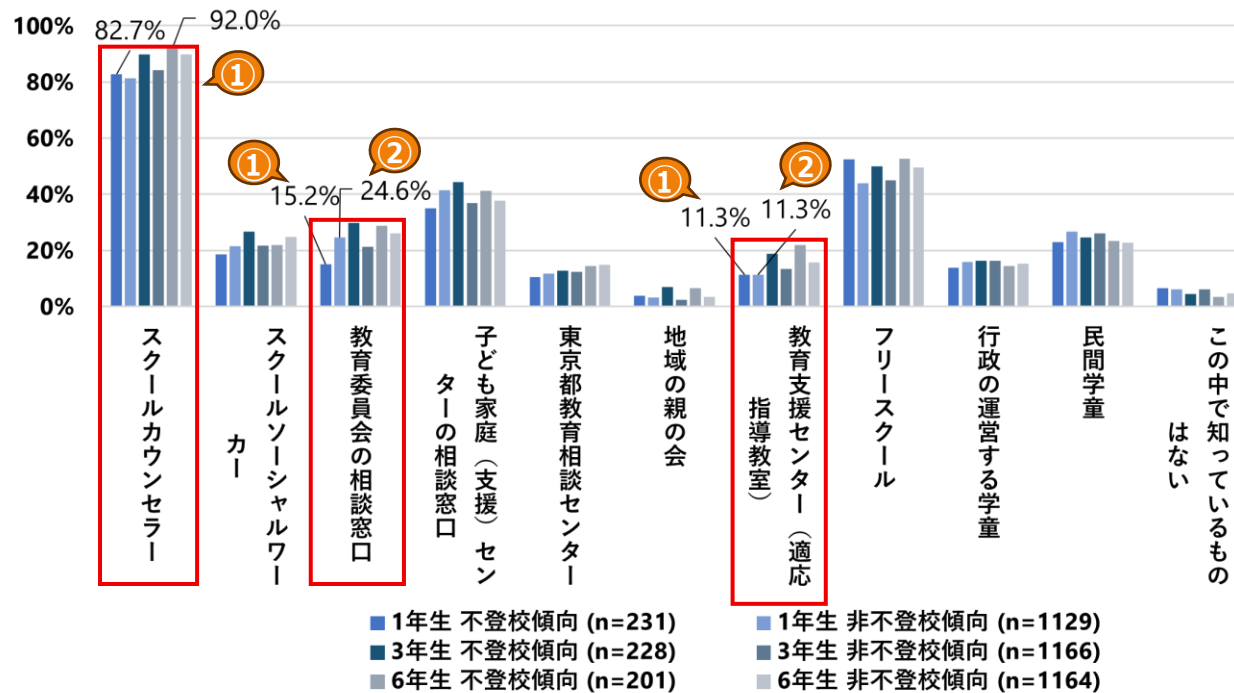
### 【②小1の不登校傾向と非不登校傾向間の比較】

- ・ 不登校傾向の方が、習い事の頻度が少ない。  
(習い事の頻度が週3日以上 小1不：26.9%、小1非：34.7%)
- ・ ただし、他学年と比較すると差は小さい。(小1不/非の差：7.8%、小3不/非の差：15.3%、小6不/非の差：15.3%)

小1は、「習い事の頻度」と不登校傾向の相関が弱いことが示唆される

保

「不登校に関する相談先」や「学校外の学びの場・居場所」として知っているものを、すべて教えてください。  
(複数選択可)



### 【①不登校傾向の学年間比較】

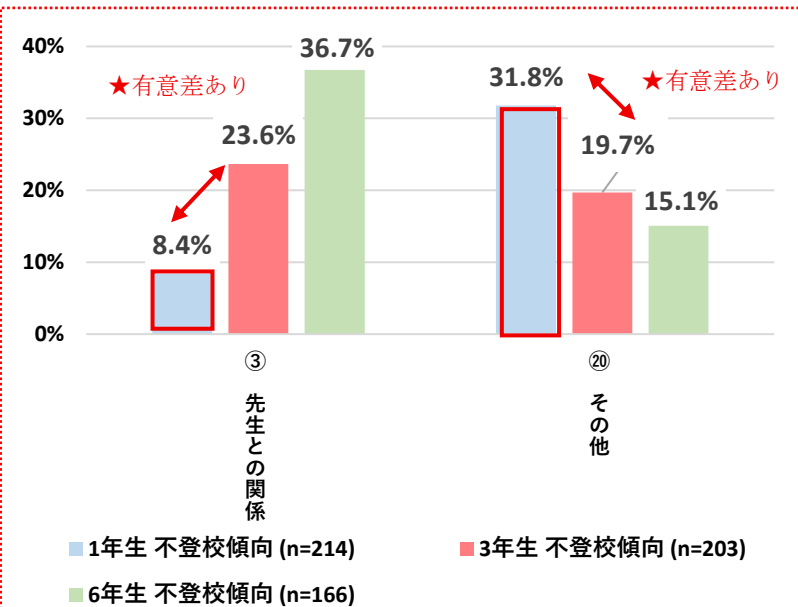
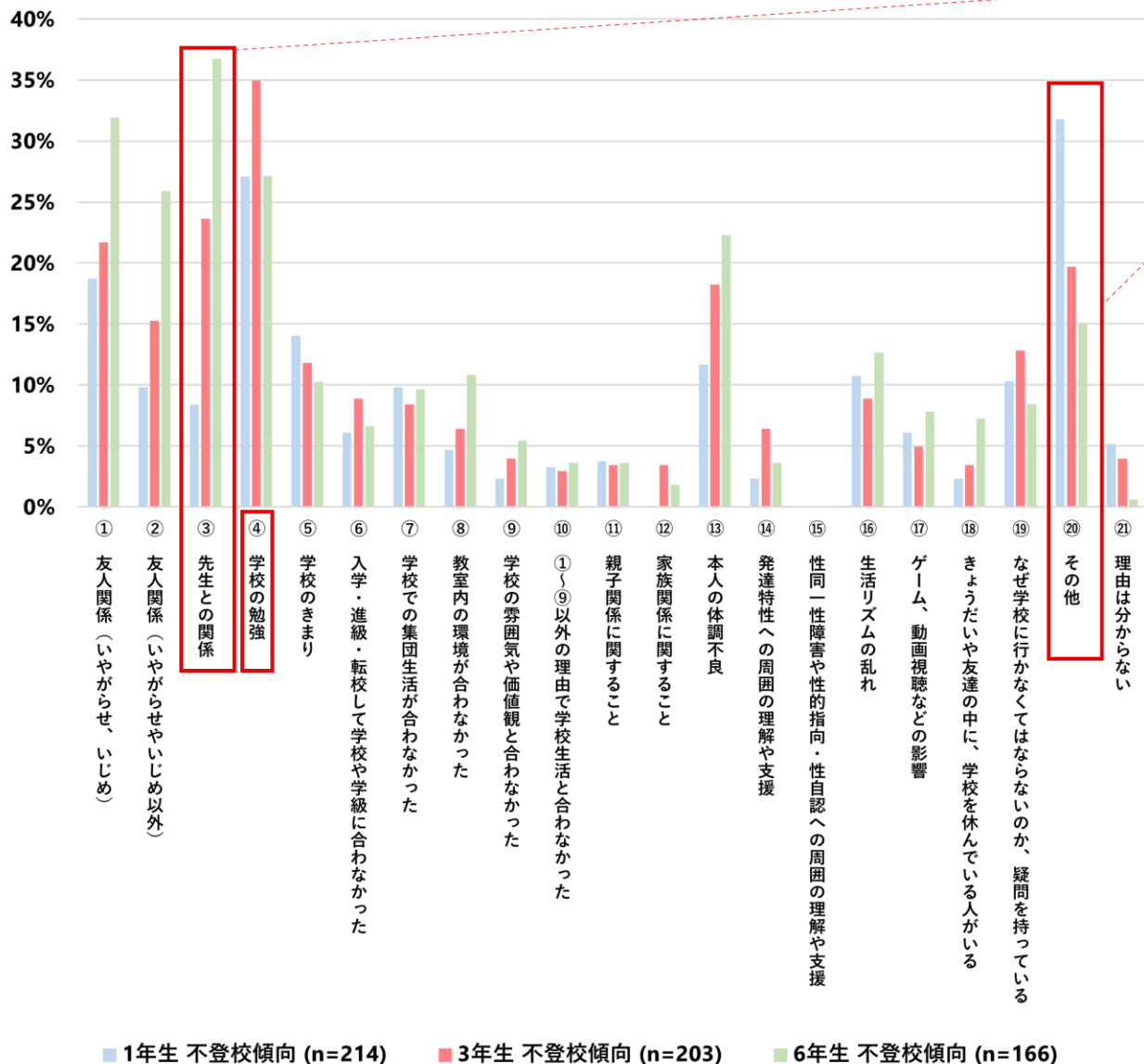
- ・ 学年を問わず、スクールカウンセラーの認知度が高い。(小1不：82.7%、小6不：92.0%)
- ・ 小1の不登校傾向は教育委員会の相談窓口（15.2%）や教育支援センター（11.3%）等の公的支援機関の認知度が低い。

### 【②小1の不登校傾向と非不登校傾向間の比較】

- ・ 不登校傾向の有無による有意差なし（教育委員会の相談窓口 小1不：15.2%、小1非：24.6%）  
（教育支援センター 小1不：11.3%、小1非：11.3%）

小1の保護者は、不登校に関する公的支援機関の認知度が低く、相談先として選択されていない可能性が示唆される

登校を渋り始めた理由として考えられることを以下の選択肢からすべて教えてください。



- ✓ 小1の保護者は「先生との関係」の選択肢を選んだ割合（8.4%）が、他学年（小3：23.6%、小6：36.7%）と比較して低い。
- ✓ 小1の保護者が考える登校を渋り始めた理由として、「学校の勉強」の選択肢を選んだ割合（27.1%）が最も高い。
- ✓ また、小1の保護者は「その他」の選択肢を選んだ割合（31.8%）が、他学年（小3：19.7%、小6：15.1%）と比較して高い。
- ✓ その他の自由記述回答で多かったのは、「保育所生活とのギャップ」「家にいたい」といった新生活への適応に関する回答だった。
- ✓ 子供が幼稚園・保育所等から小学校へ進学する際、環境の変化が大きく、学校のシステムそのものになじめなかった可能性が示唆される。

## 不登校に関する悩みとその解決方法（自由意見分析）

学年	相談先	相談してよかった理由
1	担任の先生	母親に娘の様子を伝えてくれたり、学校では娘に声がけしてくれたから。
3	担任の先生、担任以外の学校の先生、養護教諭	学校の担任や補助の先生、養護の先生などたくさんの先生が娘のことを把握してくれて、声をかけたりしてもらえたのが良かった。
3	教育委員会の相談窓口	教育相談の心理士の方に相談したことで、子供の特性にあった情緒固定学級への転校を決めるきっかけになったから。
3	スクールソーシャルワーカー	学校への要望を間に入って伝えてくれ、希望の支援を受けることができた。
6	スクールカウンセラー	月に一度の面談（親）や週に一度の面談（子供）をしていただいたうえで、その先生を通じて担任の先生だけでなく、校長先生を中心に学校全体で常にサポートしていただけた。最終的に区の適応指導教室に学びの場を移したが、現在も学校と繋がり良い関係が築けている。
6	担任の先生	子供がスクールカウンセラーへの相談や、医療機関への受診を拒否するため、担任の先生へ相談しているが、学校や家庭での様子について連携しながら、学校生活から離れ過ぎない様に常にサポートしていただいている。
6	担任の先生、担任以外の学校の先生、子ども家庭（支援）センターの相談窓口	学校の担任と学年主任 ・別室登校のサポーターを利用できるように申し込みをして頂けた。校内のサポートを保護者がする時間があることを了承して頂けた。 支援センターの教育相談 ・進路について、不登校の生徒が通えるシステムがあること等、具体的なアドバイスがあり助かっている。
6	担任の先生、スクールカウンセラー	担任の先生からスクールカウンセラーを紹介していただいたことで、特性があるのではないかと分かり、発達支援教室に繋がったから。

相談先（不登校・登校渋り）	小学1年生			小学3年生			小学6年生		
	相談先	良かった相談先	(参考) 良かった数 /相談数	相談先	良かった相談先	(参考) 良かった数 /相談数	相談先	良かった相談先	(参考) 良かった数 /相談数
家族	88	10	11.4%	77	5	6.5%	76	6	7.9%
親戚・知人	42	6	14.3%	47	4	8.5%	32	6	18.8%
担任の先生	81	38	46.9%	105	47	44.8%	101	37	36.6%
担任以外の学校の先生	14	2	14.3%	22	9	40.9%	28	11	39.3%
養護教諭	6	2	33.3%	11	5	45.5%	16	4	25.0%
スクールカウンセラー	16	6	37.5%	35	13	37.1%	44	16	36.4%
スクールソーシャルワーカー	5	2	40.0%	7	3	42.9%	7	1	14.3%
教育委員会の相談窓口	1	0	0.0%	4	0	0.0%	14	6	42.9%
子ども家庭（支援）センターの相談窓口	7	4	57.1%	11	1	9.1%	18	4	22.2%
医療機関	8	2	25.0%	22	4	18.2%	22	7	31.8%
民間の相談窓口	1	0	0.0%	1	0	0.0%	4	0	0.0%
その他	12	8	-	11	6	-	10	2	-
不明	-	26	-	-	16	-	-	16	-
無回答	-	14	-	-	15	-	-	12	-
計	116	107	92.2%	126	110	87.3%	126	104	82.5%

- ✓ スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーといった**専門家が入ることで、第三者からの意見が欲しい保護者のニーズに対応**することができている。
- ✓ **公的な専門家が、各支援機関への橋渡しの機能を果たしている。**
- ✓ **担任の先生への相談満足度はどの学年においても高い。**（小1：46.9%、小3：44.8%、小6：36.6%）



## 入学前の悩みとその解決方法（自由意見分析）

入学前に気になった具体的内容	相談先	相談してよかった理由
友人とのコミュニケーションをうまくとれるか心配だった。	幼稚園や保育所等の先生	幼稚園の先生が就学支援シートについて教えてくださり、小学校へ提出することができたから。
気持ちの切り替えがうまくいかないと、行動も切り替えられず集団生活、集団行動がとれていない。	幼稚園や保育所等の先生、教育委員会の相談窓口	保育所の先生に就学相談を勧めていただき、実際に相談したことで特別支援学級を利用でき、そのことが本人の意欲にもつながった。
こども園のときから行き渋りはあった。行き渋って登園したとしてもハンガーСтрайкиをして給食を食べなかったり大声で泣き続けることもあったため。	教育委員会の相談窓口	教育委員会の制度として入学事前面談の機会を設けてもらったため。
引越して来て、知り合いや友達がいなかったため。	その他（入学先の小学校の先生）	入学前に小学校の先生に相談し、同じような環境の子が多い事が分かったため。
他の友人との関わり方	教育委員会の相談窓口	客観的な意見をいただき、普通学級で問題ないと思えたから。
長時間席に着いてちゃんと先生の話や授業を聞くことができるか心配だった。	その他（療育施設）	幼稚園までで施設は卒業しなければならなかったが、小学校に入ってからいつでも相談に乗るとおっしゃってくださった。そういった窓口があるということがとても心強かった。

相談先（入学前）	相談先	良かった相談先（入学前）	（参考） 良かった数 /相談数
家族	670	120	17.9%
親戚・知人	381	123	32.3%
幼稚園や保育所等の先生	536	253	47.2%
教育委員会の相談窓口	107	38	35.5%
子ども家庭（支援）センターの相談窓口	157	42	26.8%
医療機関	102	19	18.6%
民間の相談窓口	22	7	31.8%
その他	125	101	—
不明	—	136	—
無回答	—	167	—
計	1,000	926	92.6%
不明・無回答率	—	32.7%	
良かった相談先の有効回答率	—	67.3%	

- ✓ 就学前に、子供の状況について、就学支援シート等を活用して**小学校へ事前に情報共有**を行えたことが**良かった**という意見が多く挙げられた。
- ✓ **入学前に小学校の先生へ相談**する機会に対するニーズが見られた。
- ✓ **就学前に専門家と繋がる**ことで、特別支援を検討する一助となり、良かったと回答した家庭が多く見られた。
- ✓ **相談して良かった相談先**として最も挙げられたのは、**幼稚園や保育所等の先生**である。（47.2%）

# INDEX

0 1

定量調査について

0 2

調査結果

～類似設問への回答比較・分析～

0 3

調査結果

～個別の回答分析～

0 4

参考資料



## 参考資料

### <本調査における不登校傾向の定義>

不登校の要因を分析するに当たり、保護者アンケートへの回答状況から**不登校傾向**と**非不登校傾向**に分類

#### 【分類方法】

① 出席状況に関する設問への回答から、**不登校**を抽出

② ①で「ほとんど毎日学校に行っている」と回答した保護者について、登校渋りの状況に関する設問から、**登校渋り**を抽出

➡ ①と②を合わせて「**不登校傾向**」とする

設問文	お子様の学校の出席状況（学校に通っている頻度）を教えてください。					
選択肢	ほとんど毎日学校に行っている	週4日くらい	週2～3日くらい	週1日くらい	ほとんど学校に行っていない	全く学校に行っていない

#### ① 不登校（不登校傾向）と定義

設問文	学校に行きたがらない様子を見せるなどの登校渋りの様子は見られますか。			
選択肢	全くない	あまりない	ときどきある	よくある

非不登校傾向と定義

② 登校渋り（不登校傾向）と定義

## <不登校の実態>

- 保護者アンケート「お子様の学校の出席状況（学校に通っている頻度）を教えてください」の設問において、4,157人中**65人**が登校頻度を「**週4日以下**」と回答

※本設問において、無効回答となったが、他設問への回答状況から、不登校傾向として分析を行ったケースがある

学年	ほとんど毎日学校に行っている	週4日以下						合計
		計	週4日くらい	週2～3日くらい	週1日くらい	ほとんど学校に行っていない	全く学校に行っていない	
小1 (n=1,370)	1,359 (99.2)	11 (0.8)	4 (0.3)	4 (0.3)	1 (0.1)	1 (0.1)	1 (0.1)	1,370
小3 (n=1,412)	1,392 (98.6)	20 (1.4)	7 (0.5)	2 (0.1)	0 (0.0)	5 (0.4)	6 (0.4)	1,412
小6 (n=1,375)	1,341 (97.5)	34 (2.5)	10 (0.7)	5 (0.4)	4 (0.3)	6 (0.4)	9 (0.7)	1,375
合計	4,092 (98.4)	<b>65</b> <b>(1.6)</b>	21 (0.5)	11 (0.3)	5 (0.1)	12 (0.3)	16 (0.4)	4,157

### ①不登校（不登校傾向）に該当

学年	全くない	あまりない	ときどきある	よくある	合計
小1 (n=1,350)	780 (57.8)	350 (25.9)	190 (14.1)	30 (2.2)	1,350
小3 (n=1,376)	802 (58.3)	366 (26.6)	187 (13.6)	21 (1.5)	1,376
小6 (n=1,335)	802 (60.1)	367 (27.5)	154 (11.5)	12 (0.9)	1,335
合計	2,384 (58.7)	1,083 (26.7)	<b>531</b> <b>(13.1)</b>	<b>63</b> <b>(1.6)</b>	4,061

### 非不登校傾向に該当

### ②登校渋り（不登校傾向）に該当

## <登校渋りの実態>

- 保護者アンケート「お子様に学校に行きたがらない様子を見せるなどの登校渋りの様子は見られますか」の設問において、4,061人中**594人**が「**ときどきある**」・「**よくある**」と回答

※「ほとんど毎日学校に行っている」と回答した保護者4,092人の内、31人は無回答または無効回答であったため、集計に含めていない

学年	非不登校傾向	不登校傾向	合計
小1 (n=1,350)	1,130 (83.0)	<b>231</b> <b>(17.0)</b>	1,361
小3 (n=1,376)	1,168 (83.7)	<b>228</b> <b>(16.3)</b>	1,396
小6 (n=1,335)	1,169 (85.4)	<b>200</b> <b>(14.6)</b>	1,369
合計	<b>3,467</b> <b>(84.0)</b>	<b>659</b> <b>(16.0)</b>	4,126

※表の上段に回答数、下段に構成比を表示（小数点以下第2位四捨五入）

## <保護者の回答による不登校傾向・非不登校傾向者数>

- ①「不登校」と②「登校渋り」を合算した**659人(16.0%)**を**不登校傾向**と定義
- 登校渋りの設問で「**全くない**」・「**あまりない**」を合算した**3,467人(84.0%)**を**非不登校傾向**と定義

※①と②の母数が異なるため、構成比の合計は一致しない

子供に対しても、保護者と同様に登校意欲に関するアンケートを行い、回答状況から**不登校傾向**と**非不登校傾向**に分類

※調査結果の分析においては、保護者の回答を基にして不登校傾向・非不登校傾向を分類

登校意欲に関する設問への回答から、**不登校傾向（不登校+登校渋り）**と**非不登校傾向**に分類

設問文	学校に行きたくないと思うときはありますか。				
選択肢	全然ない	あまりない	ときどきある	よくある	学校に行っていない

非不登校傾向と定義

**不登校または登校渋り（不登校傾向）と定義**

## <不登校・登校渋りの実態（子供目線）>

- 子供を傷つけることのないよう、直接不登校の理由を聞く設問を設けなかったが、子供アンケート「学校に行きたくないと思うときはありますか」の設問に対し、「**ときどきある**」・「**よくある**」・「**学校に行っていない**」と回答した者を、不登校傾向と定義
- 上記の設問において、全体の**40.1%**が「**ときどきある**」・「**よくある**」と回答

学年	全くない	あまりない	ときどきある	よくある	学校に行っていない	合計
小1 (n=1,369)	572 (41.8)	229 (16.7)	449 (32.8)	116 (8.5)	3 (0.2)	1,369
小3 (n=1,407)	448 (31.8)	358 (25.4)	454 (32.3)	140 (10.0)	7 (0.5)	1,407
小6 (n=1,371)	464 (33.8)	390 (28.4)	395 (28.8)	110 (8.0)	12 (0.9)	1,371
合計	1,484 (35.8)	977 (23.6)	<b>1,298 (31.3)</b>	<b>366 (8.8)</b>	<b>22 (0.5)</b>	4,147

非不登校傾向に該当

**不登校または登校渋り（不登校傾向）に該当**

## <子供の回答による不登校傾向・非不登校傾向者数>

- 不登校傾向 : **1,686人 (40.7%)**
- 非不登校傾向 : **2,461人 (59.3%)**

学年	非不登校傾向	不登校傾向	合計
小1 (n=1,369)	801 (58.5)	<b>568 (41.5)</b>	1,369
小3 (n=1,407)	806 (57.3)	<b>601 (42.7)</b>	1,407
小6 (n=1,371)	854 (62.3)	<b>517 (37.7)</b>	1,371
合計	<b>2,461 (59.3)</b>	<b>1,686 (40.7)</b>	4,147

※表の上段に回答数、下段に構成比を表示（小数点以下第2位四捨五入）

# コラム（保護者と子供の不登校・登校渋りに対する認識の差）

- 不登校傾向の家庭とそうでない家庭との比較を行うため、アンケート調査によって保護者と子供にそれぞれ出席状況や登校意欲に関する質問を行い、回答に応じて**不登校傾向・非不登校傾向**に分類（P35～37参照）
- 当初、保護者が自身の子供は不登校傾向と回答した場合、子供も同様に不登校傾向と回答する（保護者と子供の認識が一致する）と想定していたが、**保護者と子供の不登校傾向の認識に相違**があるケースが見られた

## 認識の差について

**分類①**：子供と保護者の回答共に、不登校傾向に分類された世帯

**分類②**：子供の回答には不登校傾向がみられたが、保護者は子供が不登校傾向と認識していない世帯

**分類③**：子供の回答には不登校傾向がみられないが、保護者は子供が不登校傾向と認識している世帯

**分類④**：子供と保護者の回答共に、非不登校傾向に分類された世帯

12.5%  
(513世帯)

28.1%  
(1,156世帯)

3.6%  
(147世帯)

55.9%  
(2,302世帯)  
※小数第2位切上げ

		保護者の回答		合計
		不登校傾向に分類	非不登校傾向に分類	
子供の回答	不登校傾向に分類	① 513	② 1,156	1,669
	非不登校傾向に分類	③ 147	④ 2,302	2,449
合計		660	3,458	4,118

**分類②・③**：保護者と子供の認識に相違があった分類  
※登校意欲に関する子供の回答が無回答・無効回答であった世帯を除いているため、不登校傾向・非不登校傾向者数(p.36、37)の合計値と一致しない

保護者と子供の間に、**不登校・登校渋りに対する認識の差**が生じている回答が**全体の約3割**

○子供のみ不登校傾向が見られた世帯の考えられる要因（上記②のケース）

- 子供の登校渋りのサインに保護者が気づいていない、子供が親に学校に行きたくないことを伝えられていない可能性が示唆される。

○保護者のみ不登校傾向が見られた世帯の考えられる要因（上記③のケース）

- 保護者が子供の登校渋りについて、過度に心配や不安を抱えている可能性が示唆される。